

西東京市第1次男女平等参画推進計画実績5カ年総評価

はじめに

平成20年度は「西東京市男女平等参画推進計画（第1次5カ年計画）」の最終年度に当たるため、これまでの5カ年間の総括を含めた実績評価の報告となっている。

この間、第1次推進計画の見直し作業の一環として「男女平等に関する西東京市民意識・実態調査」が実施され（平成20年1月報告書）、その結果を生かしながら第2次計画の素案づくりに着手した。また、平成20年12月からは、公表された第2次計画素案を元に、市民の意見を直接聞く機会を2回設け、さらにより多くの市民からの声を聞くためパブリックコメントの募集も行われた。こうして、新たな節目となる「第2次西東京市男女平等参画推進計画」が策定された（平成21年3月）。

本委員会では、以上のような第2次計画の今後の遂行を見通しながら、領域ごとにこれまでの5カ年間のややきびしく振り返ることにした。

以下の領域ごとのまとめにも記されているが、全体的に各担当部署の誠実な姿勢が顕著になってきている。ただ、「男女平等」という意識そのものの掘り下げや、意識啓発に関しては、行政としてどこまでやれるのか、という悩みはついて回る。また、庁内相互の連携や関連団体との協力の必要な事業も少なくはない。さらに、雇用や待遇に関しては、国の政策に大きく左右されるものも多く、地方と国との政治的・経済的連携も課題である。

今回の5カ年間の実績評価の報告が、西東京市の次なる男女平等参画推進事業の着実な進捗に少なからず役立つものであることを願っている。

平成20年度の評価基準は、これまでどおりである。ただし、「報告がなく空欄のもの」に当たるD評価は、「空欄のまま」に該当するものが非常に少なくなっている一方、もともと「評価不能」ともいえる「本計画の事業に該当しない」というものまでもが含まれているため適切さを欠き、評価基準の見直しが課題となっている。今後の討議を踏まえ、具体的な提案を含めて次年度以降に引き継ぎたい。

- A 目標・計画が明確で、計画どおり十分実施されている。
- B 目標・計画・実施のいずれかに改善の余地がある。
- C 施策にそった目標・計画が立てられていない。または未実施のもの。
- D 報告がなく空欄のもの。（もしくは本計画の事業に該当しないもの。）